

# 『社会学研究』83号(2007年3月31日刊)

## 特集「ルーマン理論の到達点」

- ・巻頭言「現代社会論としての機能分化論」(正村俊之)
- ・「ルーマンの社会の理論 全体像と現代的意義」(長岡克行)
- ・「ルーマンの経済システム論 現代市場経済の観察」(春日淳一)
- ・「後期ルーマンの政治システム理論 リスク社会のなかの政治と「否定による自律」」(小松丈晃)
- ・「機能システムのインターフェース、あるいは自律する周辺 ルーマン、ヴィルケ、フッターにおける機能システムの《間》の問題」(高橋 徹)

## 論説

- ・「日系 アメリカ人 というアイデンティティ形成 ある日系三世運動家のライフストーリーから」(土田久美子)
- ・「共生の作法」の経験的研究を目指して 「パラムせんだい」という社会的世界における「対話」理念検討」(山口健一)

## 書評

- ・本郷正武著『H I V / A I D Sをめぐる集合行為の社会学』(評者 大畑裕嗣)
- ・アルフレッド・シュッツ著(佐藤嘉一訳)『社会的世界の意味構成(新訳版) 理解社会学入門』(評者 森 元孝)